

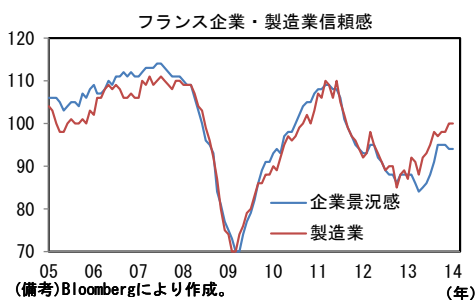
【海外株式市場・経済指標他】 ~CB信頼感指数：ヘッドラインは悪化したか~

- ・ N Y ダウ平均株価は前日比▲27.48ドルの16179.66ドル。欧州株が軟調に推移するなか、米指標の下振れを嫌気。
- ・ 2月CB消費者信頼感指数は78.1と前月改定値(80.7→79.4)から悪化。市場予想(80.0)も下回った。内訳は現況(77.3→81.7)が改善するも、期待(80.8→75.7)が悪化。相対的に悪天候の影響を受けづらい期待指数が低下したことは、ややネガティブだが既発表のミシガン大学消費者信頼感指数の期待は改善していた。指標により区々で実勢は読みづらい。
- ・ 2月リッチモンド連銀製造業景況指数は▲6と前月から18ptもの悪化を記録。市場予想(+5)も下回った。ISM換算では49.8と前月(54.6)から急低下。内訳は出荷(+14.0→▲6.0)、新規受注(+14.0→▲9.0)を中心に主要項目が軒並み悪化。これまでに発表された地区連銀サーベイは軒並み悪化したか、Markit版PMI(製)は力強く反発した。2月ISM(製)は小幅反発か。
- ・ 12月ケースシラー住宅価格指数は前月比+0.76%と22ヶ月連続の上昇。同日発表されたFAHA住宅価格指数も同+0.8%と強く、何れも市場予想を上回った。モメンタムを示す3ヶ月前比年率は両者ともに下げ止まったように見える。モーゲージ金利上昇による販売・着工のモメンタム鈍化にも拘らず、住宅価格は予想外の底堅さを見せている。



【外国為替相場・債券市場】～欧州委員会：インフレ見通し下方修正～

- ・25日の海外時間はJPYが強かったが変化率は小幅。米指標への反応も限定的で102前半ではUSDに断続的な買いが入った。その他、EUR、GBP、AUDなど主要通貨どれも小幅な値動き。26日もUSD/JPYは膠着が続き、102前半で一進一退。NZ財務相は「利上げが避けられない状況」と発言したものの、NZDの反応は限定的。
- ・米10年金利は▲3.6bpの2.702%。米現物株がマイナス圏でスタートするなか欧州債ラリーに追随。欧州債市場はコア国中心に堅調。欧州委員会がインフレ率見通しを14年（1.5%→1.0%）、15年（1.4%→1.3%）共に引下げたことがサポート。GIIPS金利の対独スプレッドは小幅にワイドニング。フランスの2月企業景況感指数は94と前月から不変。製造業も100と前月比変わらず。1月からのVAT税引上げの影響は主立って認められなかった。イタリアでは12月小売売上高が前月比▲2.6%と予想（+0.2%）を大きく下回り、2月消費者信頼感指数は予想外に低下した（98.0→97.5）。

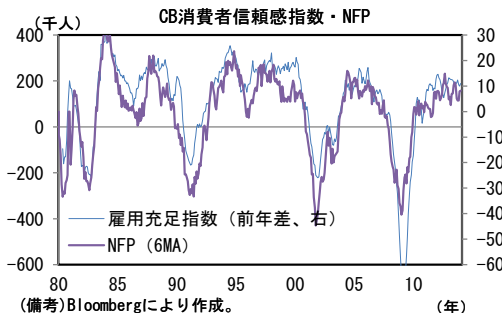
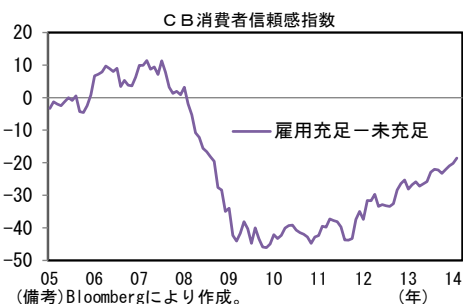


【国内株式市場・経済指標他】～下値は堅い～

- ・日経平均株価は前日比▲80.63円の14970.97円。米株安を受けて安寄り後、15000円を前に売り買い交錯。
- ・足もと日本株が底堅い動きを見せているのは、欧米株と比較して日本株の出遅れが意識されているためだろう。日経平均15000円レベルはP E Rから判断して十分に割安と言える。

【注目点】～雇用のポテンシャルは強いはず～

- ・昨日発表されたCB消費者信頼感指数はヘッドラインこそ弱かったが、雇用関連項目は予想外の改善をみせた。NFPを予測するうえで筆者が重視している「雇用が不足」から「雇用が十分」を差し引いた値は2月に一段と改善して▲18.6となった。昨年11月のそれが▲22.1だったことから判断すると、NFPのポテンシャルが、現在も20万人ペースを維持していると考えて問題ないだろう。この類のサーベイ指標は振れが小さく信頼がおける。もちろん、「天候要因が色濃く出なければ」という条件付にはなるが、2月雇用統計に期待感を持たせたことは確かだ。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。